

## Practice of Clinical Nutrition

1 unit (compulsory)

Eiji Takeda · PROFESSOR / COURSE OF CLINICAL AND APPLIED NUTRITION, SCHOOL OF NUTRITION, Yutaka Taketani · ASSOCIATE PROFESSOR / COURSE OF CLINICAL AND APPLIED NUTRITION, SCHOOL OF NUTRITION

Hironori Yamamoto · ASSISTANT PROFESSOR / COURSE OF CLINICAL AND APPLIED NUTRITION, SCHOOL OF NUTRITION, Hisami Okumura · ASSISTANT PROFESSOR / COURSE OF BASIC HUMAN NUTRITION, SCHOOL OF NUTRITION

**Target)** 患者の栄養管理を実施するために必要な、患者の病態理解、栄養アセスメントおよび栄養補給法の把握だけでなく、臨床現場で活動する医師、看護師、事務系職員、その他と相互理解を学習する。

1. 病院との連携、協力関係
2. 病棟における栄養管理も担える管理栄養士の養成
3. 臨床現場(臨場感、生命に関わることを体験する
4. コミュニケーションの構築(患者、医師、看護師、事務職員)、信頼関係、チーム医療、インフォームド・コンセント

**Notice)** 実習態度について

1. 臨床実習中は、指導医師の指示を守り、白衣を着用する。また、身だしなみ、態度、言葉づかいなどに注意する。
2. 患者の診断、病状、治療内容などの秘密は、口外してはならない。
3. 廊下歩行時、エレベーター使用時などには患者を優先する。
4. 実習開始時間は厳重に守る。やむを得ず欠席あるいは遅刻する場合には、あらかじめ担当医師に必ず連絡すること。
5. 清潔、滅菌、消毒、感染源などに注意し、患者ならびに自己の感染予防を心がける。
6. 各病院の諸規定や規則を厳守する。

**Schedule)**

1. 3~5人のグループが病棟で、医師の指導のもとで実習を行う。実習内容をまとめて報告会で発表する。
2. 患者の診断、病態、治療法を理解する。 / カルテ、問診、症状(自覚症状、他覚症状)、臨床検査(正常値)、治療法(手術、放射線療法、薬物療法、等)
3. 栄養アセスメントを行う。 / 食生活、身体計測(正常値)、必要摂取エネルギー量把握、間接カロリーメトリーを用いたエネルギー測定
4. 栄養摂取量と補給法を知る。 / 選択法、食事(約束食事せん、栄養計算)、経腸栄養(適応、禁忌、種類、処方)、経静脈栄養(適応、禁忌、種類、処方)
5. 栄養教育、栄養指導法を理解する。
6. 在宅医療(特別食、献立、実技)の方法を理解する。

**Textbook)**

- ◇ 「栄養管理のチーム医療」(武田英二、他、編集)文光堂、2006年
- ◇ 「実践臨床栄養学メモ」(武田英二、中屋豊、高橋保子、共著)文光堂、2003年

**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217977>

**Contact)**

⇒ Takeda (+81-88-633-7093, [takeda@nutr.med.tokushima-u.ac.jp](mailto:takeda@nutr.med.tokushima-u.ac.jp)) MAIL  
(Office Hour: 月曜日16時~17時)

⇒ Taketani (+81-88-633-9597, [taketani@nutr.med.tokushima-u.ac.jp](mailto:taketani@nutr.med.tokushima-u.ac.jp)) MAIL

⇒ Yamamoto (+81-88-633-7235, [yamamoto@nutr.med.tokushima-u.ac.jp](mailto:yamamoto@nutr.med.tokushima-u.ac.jp))  
MAIL

⇒ Okumura (+81-88-633-9595, [yamanaka@nutr.med.tokushima-u.ac.jp](mailto:yamanaka@nutr.med.tokushima-u.ac.jp)) MAIL

**Note)** 臨床実習に必要な知識

1. カルテを理解する:疾患の知識、医学用語、守秘義務
2. 栄養素代謝と作用(栄養代謝テキスト、文光堂、1997)